

景況実感調査(2021年2月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 稼働日は18日となり対前月、対前年と同数となったが売上、数量共に減少となった。薄板市況は国内外で上昇しているが実需がさっぱりで、一部自動車、家電の活況が伝えられているが、中小建築(2,000㎡以下)は動いていないし、先行きも見通せない。メーカーも原材料の値上がりや海外市況の強さから、紐付き価格の改定も強気での交渉となるだろう。これが実現しないと店売り市場は動きがとれない。
- ② 表面処理(亜鉛メッキ)製品は材料不足を引きずっており、引合いは多いが建築需要(中小物件)が低調なままなので、デッキを含むフォーミング製品は受注できていない。夏場以降までこの状況は続くと思われるので、せめて鋼板の好調具合は長続きして欲しいものである。
- ③ 2月は前月比横這いとなり、日割りベースで微増であった。メーカーのタイト感も解消されず、納期調整や価格転嫁に時間を費やすこととなっている。
- ④ 表面処理鋼板の入荷状況が悪く、受注残を抱えても加工量減。
- ⑤ 依然としてメーカーからの入りが悪くタイトが続く。市中仕入れも厳しく、納期調整の連続で苦慮している。まだトンネルから抜け出せない状況である。
- ⑥ 2月は稼働日数の割に販売は好調だった。輸出関連等の生産稼働が上昇してきている。値上げ交渉を丁寧に確実に実行するのみ。コイルの手配は暫くタイトな状況が続く模様。日本国内の鋼板価格は海外と比較して安く、円安が続けば国内高炉は価格の高い輸出契約を優先し、国内向けは更にタイトになる。仕入価格の上昇は年内続く。

中板

- ① 日当たりの稼働は、自動車の堅調により前月比増加しているが、需要業界に濃淡もあり実需全てが回復しているわけではない。販売は、依然としてメーカーの供給削減から玉不足による売上低迷が続いている。これまで取引の無かった特約店等からの引合いは続いており、ユーザーへの緊急供給材は言い値で成約できるが、以前のような先高観による在庫補充は、価格上昇限度を超え転嫁が難しいとの判断からか、影を潜めている。メーカーの再々値上げの報道もあるが、ユーザーとの紐付き価格値上げ決着が無い限り下部流通の転嫁は難しく、また在庫補充等の店売り市場での活発な取引も望めない。
- ② 品薄で在庫積み増しに動いた需要家に思ったほどの動きはなく、前月に比べて引合いは落ち着いてきている。母材も入荷されるようになってきたが、依然として在庫は少なく歯抜けサイズが発生している。更なる値上げを考えていたが、東京製鉄が3月契約据え置きを発表となり、様子見のところは広がり値上げも足踏み状態となっている。当面も品薄な状況が続く。

厚板

- ① 販売量は前月比1割弱減少、前年同月比約2割超減少の低迷が続いている。2月は稼働日数が少なかったことに加えて、一部ユーザーが棚卸のために月末納入停止日を設けたことから出荷が減少した。産業機械ユーザーは回復途上にあるものの足許のペースは鈍い。建機関連ユーザーも油圧ショベル系は回復傾向で受注は順調、一方でクレーン系は漸く在庫調整が完了する段階で、各社の足取りの力強さには差がある。土木案件は基本的に手堅く推移しているが、単重の軽い物件が続いており今後数か月はボリュームが減少する見通し。素材販売は低迷。前年同月比では4割の減少。材料タイトも販売減に影響している。厚板分野では、建機メーカーのみ生産計画増により荷動きは堅調だが、その他分野は低位横ばいで推移しており、土木・建築向けでも盛り上がり欠ける。メーカーの高炉休止は概ね解除完了したものの、年度内は供給タイトな状況が続く見込み。

一般形鋼

- ① 1月と同じ営業日数ながら2月の初めは商売の地合いが悪く、前月比減を覚悟していたが、売上数量以外は各指標とも数パーセント増加した。これは急激な市況値上がりによるものか。3月も足下の微量な需要を拾って前月比増に繋ぎ、需要回復を待ちたい。
- ② とても厳しい状況が続いている。鋼材価格を転嫁することが大切。

HI形鋼

- ① 2月の倉出しは減少。前年同月比も減少。2月中旬以降、引合いが減少し低調で回復の兆しが見えない状況。仕入れを考慮すると売り腰を緩めることはできず、慎重な販売に努めていく。
- ② 2月の数量については、市況の上昇により先行手配のあった1月の反動もあり減少したが、もともと2月は一年の中で最も荷動きの悪い月との認識で焦りはないが、市況が月初のスクラップ下落から値上げムードがなくなり、小康状態に。メーカーの値上げの転嫁にはまだまだ追いついていないだけに、お願いベースになるが一步一步販売価格を引き上げるしかない。

異形棒鋼

- ① 先行きは建築業界も益々厳しくなると予想している。
- ② 店売りは2月と比べて、3月に入り稼働日も多く間延びした感じ。大口のメーカー直送価格と店売り価格が並んだ。8万円台中盤にしないと採算も整合性も無くなっていく。15日締め後からは値上げする。
- ③ 売上は横這いだが、スプレット減により収益が悪化。スクラップ市況の下落、再上昇により価格転嫁の環境が崩れ、製品値上げは中途半端な状況。再度、市況押し上げに努力するしかない。

平鋼

- ① 2月に続き今月(3月)も荷動きは非常に悪い。実需に乏しく在庫用の手配もない。また、急激な値上げも購入意欲を失わせているように思える。しかし、再びスクラップが4万円を超え、更なる値上げの可能性も出てきた。価格転嫁を早急に進めて行かなければならない。

車量形鋼

- ① 2月は低調な商いのまま推移しており、3月に入っても状況は変わらず、後半になると年度末で一段下がってしまうことが予想され、苦しい状況がしばらく続いてしまいうさだ。
- ② 継続的に前年比減少で推移。

鋼管

- ① メーカー値上げ、供給タイトが要因で仮需中心、実需が少ない。
- ② 前月、前々月ともに悪かったので今月は増加したが、物件を除く日割りは回復しておらず、3月も値上げ動向を含め不透明なままである。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連は堅調、建機、工作機械も回復が顕著に見られる。特殊鋼各メーカーは高水準の生産になっている様子。店売りは底を打って横這いの状態。在庫はほぼ適正だが、一部に歯抜けも出始めている。価格は横ばっているが、各メーカーの値上げを受け今後、価格転嫁の動きが本格化して行く展開が見込まれる。
- ② メーカーからの値上げが来て、今後の価格転嫁が課題になる。一部、仲間問屋でも歯抜けが出てきている様子。

磨棒鋼

- ① 小口の店売り品については、ようやく底を打った感は出てきたが、まだ安心できるほどの回復には程遠い。紐付き品は、自動車、半導体装置関連を中心に好調を維持。半導体不足による生産調整も今のところは限定的。4月以降、素材価格の値上げを受け、販売価格改定を行う予定。素材に加え生産、配送にかかわるコストも転嫁していきたい。

その他

<鉄線・ナマシ>

- ① ナマシが2月1日から上がり、値上げした。3月1日、4月1日と上がる。値上げ前に結構出荷したので3月、4月は減りそうだ。

<鉄スクラップ>

- ① スクラップ市況は昨年より1か月スパンでの乱高下が続く、非常に不安定な状況が続いている。日々の情報を注視していても、海外市況や配船や流通の状況により急に潮目が変わってしまったりして、全く先が読めない。2月末現在、天井感あり。

<金属表面処理>

- ① 2月は紐付き・物件物ともに計画通り。スポットは後半に引合い、成約とも減少傾向であったが扱ひ量、売上ともに10%増。3月も確定している紐付き、プラント案件を中心に操業。年度末であることからメーカーからの強制出荷が予想されることから安定操業にて推移できそうである。